

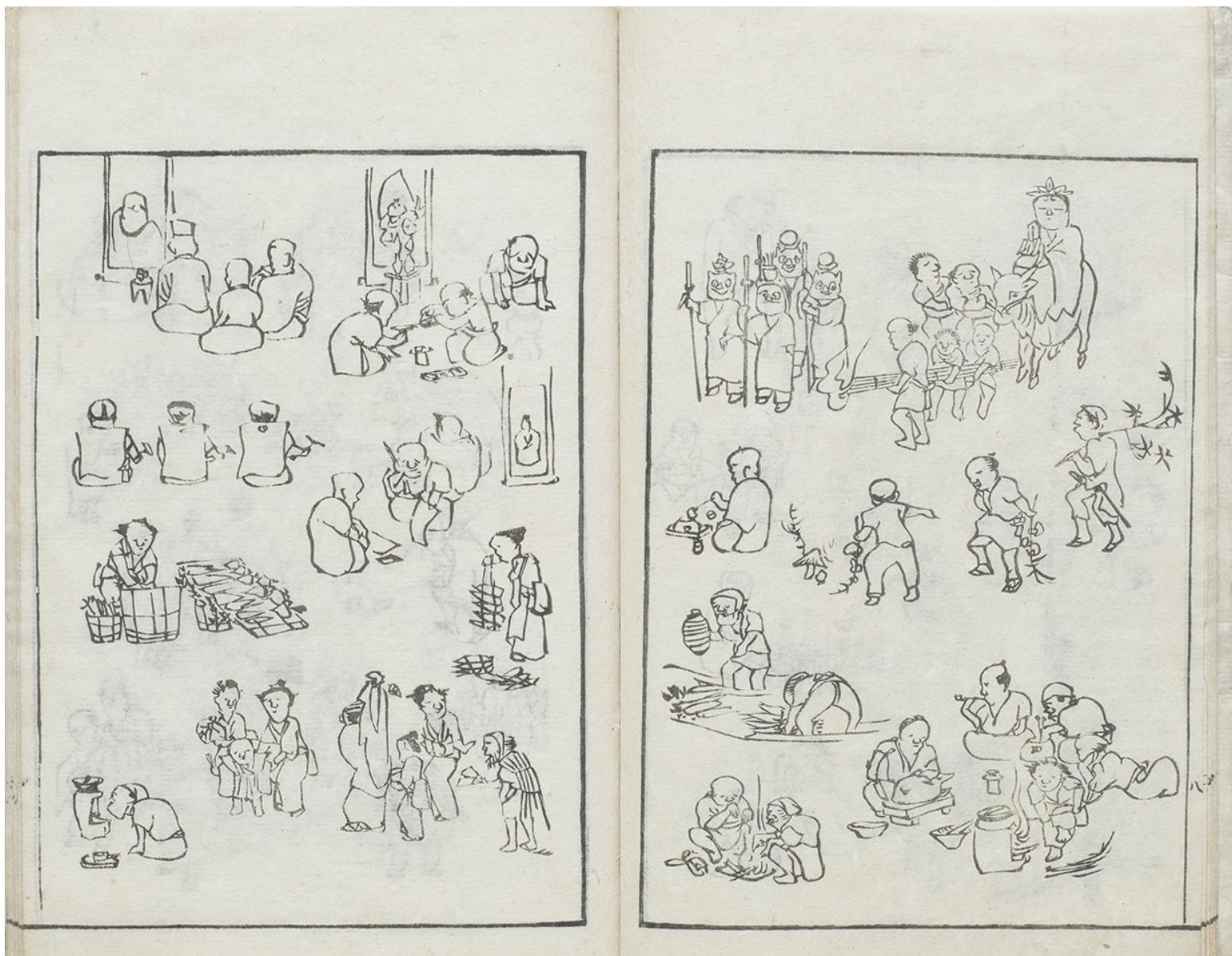


江戸時代後期の京都で活躍した河村文鳳 (1779 ~ 1821) による『文鳳麁画』から、コロコロとした、かわいらしい人物の絵をご紹介します。

『文鳳麁画』は、名古屋の出版者から出された本 (木版画で摺られています) です。ちょっとした絵を描くときのお手本として作られており、軽さとおかしみが魅力になっています。

今回はたくさんの絵のなかから、一部を抜き出してぬりえにしてみました。

上から「太秦の牛祭 (京都広隆寺の祭り。牛に乗った、またら神とそれを先導する赤鬼・青鬼)」、
「六斎念仏」、さいごは「きのこ狩り」でしょうか。セリフを想像しながら、色をぬると楽しいですよ。



河村文鳳『文鳳麁画』寛政12年(1800)序 名古屋市博物館蔵

この作品は、特別展「北斎だるせん！」(2017年、名古屋市博物館)で展示されました。

名古屋の出版について、もっと知りたい方はこちらをどうぞ。

《展覧会の詳細》 <http://www.museum.city.nagoya.jp/exhibition/special/past/tenji170901.html>

《展覧会図録》『特別展 北斎だるせん！』2,200円 B5判 152頁 (2017)

<http://www.museum.city.nagoya.jp/activity/publish/index.html>